

きて！みて！知って！徳島東環状線 ～イオンモール徳島との連携～

徳島県東部県土整備局<徳島> 主事 林 友海

日頃より地域の方々から県が実施する事業に対して質問や意見・要望が多数寄せられている。そのため事業への関心を高め、理解を深めてもらう取組として、近隣の大型ショッピングモールである「イオンモール徳島」と連携し、事業紹介のイベントを開催した。

キーワード イベント型説明会、「集める」から「集まる」手法、地域連携

1. 緒論

(1) 徳島外環状道路

徳島市内では、国道11号をはじめとする主要幹線道路が徳島市中心部で交差しているため慢性的な交通渋滞が発生している。徳島県では、徳島市中心部に集中する交通の分散を目的として高架部と側道部で構成（一部区間を除く）される総延長約35kmの徳島外環状道路の整備を進めている。（図1）



図1 徳島外環状道路の概況

(2) 徳島東環状線

中でも徳島東環状線は、国道11号（徳島市川内町大松）から東へ分岐し、吉野川を渡り、国道55号（徳島市八万町大野）に接続する延長約10.4kmの路線で、「川内工区」、「阿波しらさぎ大橋」、「末広住吉工区」、「新浜八万工区」の4つの工区で整備を進めてきた。これまでに、国道11号から阿波しらさぎ大橋を経て、城東交差点までの区間が平成24年4月に、阿波しらさぎ大橋南詰めから950m区間の南行きが平成27年3

月に、北行き車線の約940mが平成31年3月にそれぞれ供用開始となり、安宅交差点から阿波しらさぎ大橋方面へのノンストップ走行が可能となった。

現在は、安宅交差点から末広大橋までの区間の整備を進めている。



写真1 徳島東環状線の現在の状況

2. 現状と課題

(1) 施工上の課題

徳島東環状線は、施工ヤードを確保できたとしても、施工ヤードはせまく、施工ヤードの直近を車が走行しており、交通量も多いのが現状である。また、市街地での工事でもあり、走行している人のみならず、沿線住民の方にも騒音や振動等配慮する必要がある。

(2) 地域住民の声

現在、徳島東環状線は、安宅交差点まで上部工が完成し、引続き工事の施工ヤードを確保しなければならず、従来の通行形態が変化している。

このような中、日頃から地域住民等から、道路の形態が変化したことにより、「交差点の形状が分かりづらい」「交差点が危ない」といった意見を多数いただく。

また、工事の最終局面に入っていることも見てとれる

ため、「末広大橋とは、どう繋がるのか」「完成したらどうなるのか」といった声も多数いただいているのが現状である。

そのような中、早期開通に向け、徳島東環状線を利用されている方、沿線住民、地域の方に対して事業の理解を得る必要があるが近年新型コロナウイルスの影響で現場説明会や見学会等の開催が困難な状況にあった。

そこで、本稿では、新たな情報発信の取組について述べることとする。

3. 情報発信の取組

(1) これまでの情報発信の取組について

これまで徳島東環状線では、情報発信の取組として、徳島県のHPを活用し、工事の進捗や交通形態の変化等の情報発信を行ってきた。「徳島県のHPを見て連絡しました」との連絡もあり、徳島県のHPから情報を得ている人も一定数いる。

また、実際に造っているものを見て理解を深めてもらうため、現場での説明会や見学会も過去に開催した実績がある。

(2) 新たな情報発信の取組について

a) イオンモール徳島との連携

2章で述べたとおり、近年新型コロナウイルスの影響で現場での説明会や見学会の開催が困難な状況であった。

そこで従来の現場説明会・見学会に代わる情報発信のかたちを検討する中で、徳島東環状線の沿線に立地している「イオンモール徳島」との連携を試みた。これは、徳島東環状線を通り「イオンモール徳島」を訪れる客が一定数いることや、以前に2日間に渡りイベントスペースを一部お借りして徳島東環状線 PR イベントを開催した実績から、改めてお願いすることとした。

イオンモールでは、事業紹介を目的に行政機関にモール内テナントを貸し出すのは極めて珍しいことであるものの、本社からご快諾をいただき、徳島店の担当者と協議を重ね事業紹介ブースを開設することとなった。

3. イベント内容

(1) 令和4年5月開催

令和4年5月1日から令和4年5月31日までの1ヶ月間イオンモール徳島で事業紹介ブースを開設した。ブースの様子については写真2のとおりである。次項では、今回のイベントの目玉である「完成予想模型」と「LIVE映像」について紹介する。



写真2 イベントブース

a) 完成予想模型

これまで事業の説明等は、平面図やイメージ図を用いて説明するのが一般的であったが今回、立体的にイメージがわかりやすく理解をしてもらう手助けとなるよう徳島東環状線の現工事箇所である安宅交差点から末広大橋にかけての完成予想模型を250分の1のスケールで高架部と側道部が分かるように職員が手作りで作成した（写真3）。本現場の工程をイメージしてもらえるよう模型の中に目印となる建物も再現した。



写真3 完成予想模型

b) 現場のLIVE映像

イベント期間中は、現場の施工ヤード上にカメラを設置し、Wi-Fiを活用して現場とイベントブースを繋ぎ、現場の映像を平日はリアルタイムで、休日は録画で見えるように映像を流した（写真4）。実際に流した現場の映像は、橋脚の鋼管杭打設の工程である。鋼管杭の打設から溶接、セメントミルクの注入、根固めまでの一部始終を映像で流した。



写真4 現場のLIVE映像

行ったものを映像で流した。

見て飽きないように各方面からの視点や、対比を出来るように現在と完成時を左右に配置した。



写真6 交通シミュレーション

(2)令和5年2月3月開催

令和4年5月の1ヶ月間開催したイベントが好評であったため、また、これからの工事の周知のため、令和5年2月から3月の2ヶ月間イオンモール徳島にて事業紹介ブースを再度開設した。

イベント内容は、令和4年5月のイベントとは違う内容として次項の内容を取り入れた。

a)施工予定ステップ図

完成予想模型とは、別に今後の工事の予定を周知するために、施工ステップが分かるように模型を作成した。現在の状況から、橋脚の施工ヤードを確保するために生じる交差点の形状変更などが視覚的に理解が出来るように模型を作成した。



写真5 施工予定ステップ図

b)交通シミュレーション

安宅交差点付近の現在の交通の流れと徳島東環状線が完成した時の交通の流れを予測し、シミュレーションを

c)橋の豆知識の講話

受注業者による橋の豆知識の講話を2週間おきに開催した。講話の内容は、「工場製作とは」「いろいろな橋のかけ方」「今回の橋のかけ方」「ボルトの話」など橋梁に携わっていないと知らない話を講話とした。

画面に資料を打ち出したり、ボルトの講話の時には、機械を実際に見せたりと一般の方が初めて見るものを多数取り入れた。



写真7 講話の様子

4.情報発信の手法としての評価

(1)「集める」から「集まる」手法

従来の説明会等は、募集をかけて興味のある人を対象に開催していた。しかし今回の説明会は、募集をかけるのではなく、「イオンモール徳島」に訪れた方を対象とした結果、多くの方に興味を持っていただき、情報発信をすることができた。

(2)イベント型説明会

今回の説明会は、ただ単に事業等の説明をするのでは

なく、イベントを組み合わせた「イベント型説明会」として開催した。イベントと組み合わせて説明会を行うことによって、子供は塗り絵やクイズ、保護者は説明を聞く等、隙間時間を有効に活用することができ、約3万人もの方に来場していただくことが出来た。



写真8 説明風景

(3) アンケート結果からの評価

クイズと併せて簡単なアンケートを実施した。令和4年5月のイベント時に実施したアンケートの中で「今回のイベントをどのように知ったのか」という問いに対し、回答者900人中634人の方が「イオンモール徳島に来てたまたま知った」と回答した(図2)。「たまたま知った」と回答した人のうち約9割の580人の方が「次回イベントがあれば来ますか」という問いに「来る」と回答した(図3)。さらに「イオンモール徳島でするなら来る」等の回答内容も見受けられた。

従って、今回の取組は、興味を持って来場された方だけではなく、不特定多数の方に興味を持っていただけたこと、さらには、偶然イオンモール徳島に来場された方のうち約9割の方が次回も「来る」という回答が得られたことで、新たな情報発信の一手法として評価されるものであると考える。

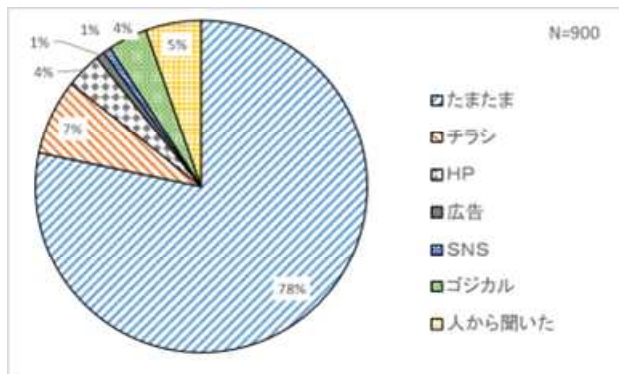


図2 イベントを知った経緯

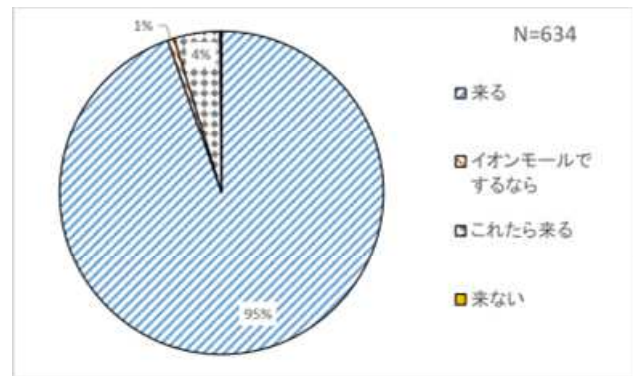


図3 次回イベントの参加の有無

5. 次回の情報発信やイベントに向けて

次回のイベントに向けての改善点を述べる。まずは、動線計画である。今回のイベントの目玉である模型をじっくり見てもらう工夫として、模型を見ないと分からないようなクイズを考えた。その結果、模型をじっくり見てもらうことができたが、模型の周りに集中してしまう時間帯があった。

また、イベントの開催期間についても考える必要がある。今回1ヶ月と2ヶ月イベントを開催した結果、周知の期間としては、2ヶ月がベストの期間だと感じた。しかし、2ヶ月間もイベントをするとすると、2ヶ月目に突入した頃になると、来場者数も失速した。そこで、2ヶ月間イベントをするのであれば、少し大変ではあるが、最初の1ヶ月と残りの1ヶ月とでクイズの内容やVR体験等のイベント内容を変えるべきだと感じた。

6. おわりに

今回のイオンモール徳島と連携した事業紹介は、興味のある参加者のみを集めるのではなく、偶然通りかかった方たちも多数集まった。その結果、地域住民だけではなく、徳島東環状線を利用している人など不特定多数の方に事業を知ってもらうことができた。

また、以前から多数いただいていた「末広大橋とはどう繋がるのか」等の意見についても完成予想模型を用いて説明することによって理解が深まったと考えられ、「事業の理解を深める」「幅広く周知を行う」等の徳島東環状線や本イベントの目的を十分に達成できたと言える。

今回の取組が様々な情報発信の取組を検討する中で、一手法として検討の対象の参考になればと望む。